

新建福岡・NOW

第1号 2011.03

発行元
新建築家技術者集団
福岡支部事務局
〒815-0041
福岡市南区野間 3-9-20-4F
【ケイ・プラッツ内】
Tel/Fax 092-541-8128
HP: shinken-fukuoka.net

長らく停滞した新建福岡支部の機関誌の再発行を嬉しく思います
が、今回はまず3月11日に発生した「東日本大震災」の被災者の皆
様にお悔やみと激励の言葉を申し上げます。

しかし、このような時期だからこそ私たち”まちづくり”に
関係する人々が団結して、学習を深めて行く準備を進めたいと思
います。

昨年の研究集会を契機に福岡支部は新たな時代が始まったばかり
です。今後も新建の理念や実践を学びながら、全国の仲間と共に協
力して、新建の活動に参加していけるようになる事を望みます。

昨年の福岡支部のキーワードは皆様に「感謝」の一言でした。今年
はどんなキーワードになるのでしょうか!?楽しみです。

福岡支部の愛すべきキャラクターも誕生!
どうぞよろしくお祈りします♪

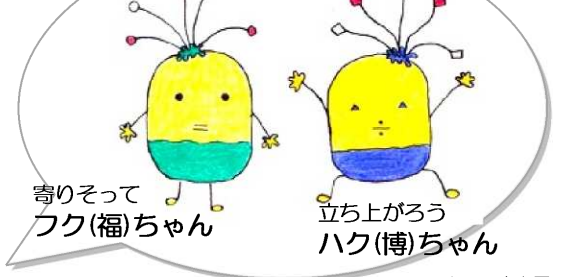


イラスト by 沖本圓

東日本大震災に 際しての声

震災直後より福岡支部メーリングリスト等では、連日多くの情報やコメントが寄せられて
います。新建全国からも第一次声明を発信、救援募金活動も開始しております。(詳細は
新建全国HPをご参照ください) ここではMLのなかからいくつかご紹介いたします。

3/12 沖本さんより

沖本は、福岡市NPO・ボランティア交流センターに
非常勤で勤めていますので、こちらで分かる情報
がありましたらお知らせできると思います。
どうか皆さまこういう時こそ連携いたしましょう。

3/12 片井さんより

…原発はメルトダウンの危機に瀕しているのでは
ないかと心配です。津波の威力を見せ付けられました。
福岡支部としても何かできないか提起したい
と思います。

3/14 原田さんより

今、出来る事、義援金ではないでしょうか。
人員の支援を行うにも、活動費など
必要です。

3/13 鹿瀬島さんより

昨日は大阪の梅田で献血に行ったのですが、
大勢の人が来てました。特に若い方々が多く、
ネットの影響か日本はまだまだ捨てたもんじや
ないと思える光景でした。

3/15 上田さんより

非常時に個人、組織として何をすべきか出来るのかを考えることになりましたね。また今回はあらたな通信インフラの力を知るようになりました。…なかでもTWITTERの情報伝達力はすごく誤報やデマも含めた情報を何よりも早く多く目にしました。最初こそ玉石混交の感じでしたが、次第に自己規制も含めたルールの周知が成されてあらたに完全なる通信手段へと昇華していった感じですよ。…

2011年2月19～20日、福岡支部では昨年の研究集会の慰安旅行ということで唐津へ出掛けてきました。さてどんな珍道中だったのでしょうか? 企画・先導して下さった古川さんからのレポートを2回の連載でお届けします。

新建唐津慰安旅行にかたって (1日目編) —慰安旅行を企画した立場から— 古川 博



唐津は福岡から最寄で、見るところも多く、温泉もあるが、福岡でもあまり知られていない。今般はその唐津一泊慰安旅行を企画した。

唐津の町並み、いろは島国民宿舎、名護屋城址、呼子等は好んで訪ねるところであり、旅行の計画も簡単にできた。参加者は17名、内鹿瀬島氏の事務所のオーナーである小西社長は見学する旧高取邸、旧唐津銀行の改修工事に携わられたこともあり、参加され、また旧唐津銀行の見学には同室の岡部姉も参加された。旅行日が土日であったので、筑肥線の快速がより多くあり、快速に最寄りの駅から参加者が便乗し、姪浜からは軽快な旅ができた。



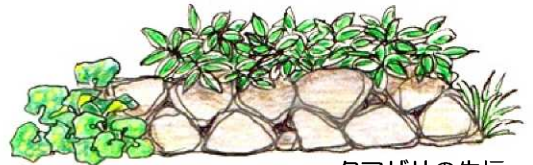
集合写真 名護屋城址にて

唐津は矢野安希子さんの幼少時まで育ったところ、旧高取邸に行く途中、旧居の前を通ったが、面かげはなかった。唐津の町並み、クマザサの生垣、など昔ながらの風景を楽しみながら散策した。

旧高取邸は平成10年に国の重要文化財の指定を受け、6年間の改修工事の末、新たにオープンされた邸宅で炭鉱王の邸宅は北部九州ではよく見受けられるが、能舞台を持つ邸宅は全国でも皆無である。

各居室の天井の高いこと、床の間の床柱は銘木(特に中国産)を選定して使われ、欄間にヨーロッパの技法を取り入れており、暖炉も和室に設置されている。国重文に指定されるだけ、質の高い和風建築であった。時間の関係で30分の急ぎ早の見学であったが、わたくしは今まで改修工事中で見学できず、初めての見学で充分堪能することができた。

昼食は最寄りの唐津茶屋でのアラ炊き定食、アラ料理は唐津でないと食べられない、玄海灘の一本釣り深海魚である。実の硬いところが美味しかった。



クマザサの生垣



食後は小西社長による旧唐津銀行のカーテン・内装工事の苦勞話を写真で持って、説明を受けた。【左写真】貴重なお話であった。後は唐津城【下左写真】、斜行式EVで城広場へ、唐津城天守閣は寺沢氏により築城され、天守閣には名護屋城を解体した材料が使用されたという。戦後RC造で再建された、唐津のシンボリック建造物である。風光明媚な虹の松原、玄海灘を見下ろすところで記念撮影、後は石積階段を下り、唐津市内を散策しながら、目的地旧唐津銀行までの徒歩である。日頃歩いておられない人には少し、きつい距離ではあったが、城壁を見ながらの楽しい散策であった。途中5月ごろ満開の藤棚を通り抜け、石積み階段は手摺があったものの、新谷さんの奥様には厳しい下りであった。

途中旧唐津東高校跡地にできた早稲田中高一貫唐津校前を通り旧唐津銀行へ【下左中写真】、予定より早かったが、唐津市役所観光課の神田氏、工事担当の建築課香月氏に迎えられ、工事中であるが、唐津市役所のご好意により見学が可能となった。両氏より詳しい説明を受け、内部を両氏引導により、見学した。明治45年竣工の設計は辰野金吾の弟子の田中実、監修辰野金吾、施工は清水組(現在の清水建設(株))で、平成9年に唐津市に寄贈され、平成14年に唐津市重要文化財の指定を受けている。今般唐津市の観光資源として、また将来国の重要文化財を目指して、87千万円をかけ、保存整備工事がなされ、この3月15日にオープンが予定されている。煉瓦造の地下1階地上2階、塔屋の建物で、今般文化財として、忠実に復元工事がなされた。また煉瓦造りであるので、外壁煉瓦部はボーリングし鉄筋が挿入され、耐震補強がなされている。今回オープン後では入室できない、貴賓室、塔屋、小屋裏にも入室が許された。よき建物見学であった。家庭の事情で、帰らなければならない鹿瀬島さんに別れを告げ、後は唐津駅前待機中のいろは島荘マイクロバスを目指して、唐津駅へ、仕事の関係で遅れた井上智子さんが出迎えてくれた。15時30分出発の予定には若干遅れたが、別の宿泊客6名と宿舎へ、途中当方からの要請で鷹島大橋の見学を申し入れており、願いがかなって、長崎県・佐賀県で2百億円をかけ、できた大橋を景観に特に配慮した橋として、名が通っており、通るだけであるが、見学ができた。

いろは島【下右中写真】荘に近づく道すがら大浦棚田の光景が目を楽しませてくれた。宿舎には予定通り16時40分に到着、部屋割りを済ませ、18時からの懇親会まで、温泉への入浴、また宿舎周辺の散策等で時間を過ごし、大宴会場に参集した。20時30分までの2時間半、ワイワイガヤガヤ、途中に上田君の指導による、今年の新建全国セミナー(8月)の懇親会でのニュージーランドの踊りの出し物の練習があり、盛り上がった。後半にはカラオケもはやり宴もたけなわ、20時30分の延長30分で切り上げ、10畳での2次会場に移った。懇親会の料理は普通料理で足りるかどうかが懸念されたが、充分であったようだ。【下右写真】

2次会用にアルコールは新谷さんの数年前のヨーロッパ旅行での土産のブランディ、古川による台湾の40度の泡盛と上田君の黒霧島が差し入れられた。よく話し、よく飲んだ。小西社長はストレートで飲んだ泡盛で、すぐ眠りについた。12時まで話に花が咲き、ブランディのお湯割りがとても美味しかった。強い泡盛は生地でたしなみ、黒霧島はあけなかったが、ブランディと泡盛は明けてしまった。一番若い中島君は強い酒を飲まされた。酒豪である。2次会は12時でお開きとし、各自の部屋の寝床についた。



今後のスケジュール(予定)

- 4月2日(土)「花見」
- 4月19日(火)【幹事会】+ 勉強会
- 5月17日(火)【幹事会】+ 勉強会
- 5月28日(土)「原田瑠璃製作所」工場見学
- 6月21日(火)【幹事会】+ 勉強会
- 6月26日(日) ステンドグラスづくり体験
- 7月19日(火)【幹事会】+ 勉強会

次号予告(一部予定)

- ・新建唐津慰安旅行にかたって～2日目編～
- ・(仮題)故郷を歩いて～慰安旅行の感想～
- ・誰でも発信コーナー(建設プロジェクト進行のヒント)

編集後記

ひとりの力は小さくても今いる場所で取り組む思いを行動やことばやカタチにして伝えつなげていきたいですね。皆さんのつづやき・いつでも募集中です。(神野)